

今天徳院に入る小路をば、菱屋小路と呼べり。此の小路の奥に小家ありて、従前は地子地也。若しくは此の地ならんかといへり。貝焼場の名は、昔は此所にて貝灰を焼製せし故に、貝焼場と稱し、もとは荒地なりしかど、後に地子地となし、小家共を建てたるにや。

○龜坂

或は龜坂と書き、がめ坂と呼べり。舊傳に云ふ。往昔小立野山地なりし頃は、此の地甚だしく深き谷なりけるを、此の道路は戸室山より伐石を挽出す道筋なるにより、追々谷を埋めて今の如く成したりといひ傳ふ。但しがめ坂といふ名の由縁は詳かならず。

○線香場

がめ坂の傍なる小路の奥なり。辰巳用水の餘水を以て水車を仕掛け、線香を製す。金澤に於て水車を用ひて物を製する起源也と云ふ。近く絶えたり。

○鼻かけ清水

此の清泉は、がめ坂の下より少し上の方にあり。甚だ冷水にて、寒中此の靈水にて口中を灑ぐに、冷氣甚だしく將に

鼻も欠くるやうに覺ゆ。依つて俗に此の清泉を鼻かけ清水と名付けたりと、加賀古蹟考にいへり。按ずるに、元文二年の加州産物志に、石川郡上野新村領に清水あり。はなかけ清水と唱之と載せたり。此の清水の名今は絶えたりけん、不詳。或は曰く、今善光寺坂の下往來臨に大清水とて、小立野にて第一の清水と云ふあり。若しくは此の清水にてもあらんかといへり。

○龜坂犬部屋跡

延寶金澤圖に、がめ坂の上北側間數六十二間、御鷹犬牽十六人と註して、自餘は凡て百姓地とあり。又同圖に、天徳院の傍にも御鷹犬牽十六人、同三人内一人小頭、外に同一人と三圍に圍したり。又御鷹犬牽六圍を笠舞村の方に圍したり。此は後々迄存せし笠舞の犬小屋也。がめ坂の犬小屋は、後に横山同心家中と呼びて、横山同心の組地と成りたり。

○上野町

此の地は上野の村地にて、改作所舊記に載せたる寛文五年四月上野村百姓の願書に、私共在所御高之内、金澤廻り百姓共相對を以て地子におろし、家をつくらせ申分、并に御

用地に被召上御替地共、今程家數多くに罷成、諸事縮之儀百姓共難成に付、町方より裁許仕様に被成下度。と記載す。右願の趣に依りてか、貞享四年四月金澤町奉行の書狀に、金澤町より相續く百姓地、石川郡笠舞村・上野村・山崎

領等百姓と相對を以請地仕有之者共、自今以後觸等之儀、町奉行裁許に被仰渡。とありて、是より金澤町會所の附屬地とは成りたり。變異記に、元文五年四月朔日小立野新町小家廿軒許焼失、近邊寶幢寺無難。とあり。右小立野新町は即今云ふ上野町なれば、そのかみ小立野新町と呼びたりしと聞ゆ。文政四年二月郡地のヶ所町會所支配地と成り、町名を立てたる時、初めて上野町と名付けたらといへども、尙地所は上野の村地にて、地子米を村方へ收納せしを、明治十二年郡地の分悉く町地へ屬せられたり。

○善光寺坂

此の坂路は、上野町八幡の邊より山里へ通ふ道路也。いにしへ此の地邊に善光寺といへる寺ありし故に、坂名を呼びたるなるべし。改作所舊記に載せたる元祿十一年正月浦波新村百姓四郎兵衛の書付に、寛永六年に辰巳御水道出來に

付、其翌年御水道上水餘り申に付、下小立野と申所新開高に被仰付。其時之御奉行方私共被召連、善光坂より上は板橋切、西は川懸け指除、東は御栗林・いちご島指除、不殘私共領地に被仰付。とあり。

○寶幢寺跡

上野町の町端なり。寶幢寺は愛宕の別當にて、往昔は小立野寶幢寺坂の高に寺地を賜はり、此所に愛宕社有之處、元祿九年奥村氏の邸地を石引町下邸の地へ移轉し、其の頃寶幢寺は小立野上野町の町端へ移轉被命。夫れより此の地に愛宕社ありしかど、明治二年神佛混淆御廢止に付、別當寶幢寺復飾すべき處、願ひに付其の儘に相成り、愛宕の神像は卯辰愛宕社へ合併相成り、其の後寶幢寺は百姓町山伏長樂寺の跡へ移轉せり。

○芭蕉墳

諸國翁墳記に、加州金城南愛宕山寶幢寺境内にあり。金府小立野連中。山寒し心の底や水の月  
右諸國翁墳記は安政年中の撰に而、輓近の事なれど、其の